

虚子記念文学館投句特選句・令和六年七月

稲畑廣太郎 選

透きとほることを離れて額の花 岡山 石井宏幸

汀子邸緑蔭ふかくしづもれる 新潟 安原 葉

編み上げて孤独な宇宙蜘蛛の糸 東京 木村三球

杖を父笠を母とし山登 兵庫 山之口倫子

もの思ふ葦とは風のハンモック 大阪 棕本望生

逆らはず従はぬ妻心太 兵庫 高野さち

白靴の底なる貝のかけらかな 大阪 押見げばげば

片陰にひしめき合ひて二軍の子 兵庫 武田奈々

夜ふかしラムネーびん夏のあじ 兵庫 古橋和奈
(青少年)

暑い日にコンビニ入る生徒多数 兵庫 古橋歩奈
(青少年)

入選句・令和六年七月

蓮の葉の雨滴ころころ揺れ落ちて	埼玉	小田和夫	箱庭に小宇宙なる理想郷	奈良	山口廣世
追憶の哀しみ深き沙羅双樹	京都	西村やすし	タクシーの捕まらぬ午後街薄暑	大阪	ふじもと言果
産土の杜の膨らむ夜店の灯	大阪	河辺さち子	涼しさや巻貝に聴く海の音	兵庫	上岡あきら
あれそれで通じて愉快心太	大阪	須知香代子	青嵐戦没者慰霊碑の黙	奈良	堀田建夫
庭刈つて施設へ入居梅雨曇	兵庫	池田文子	隧道を抜け万緑に吞まれたる	大阪	杉山千恵子
羅を脱ぐや羽衣脱ぐやうに	大阪	多田羅紀子	青ぶだう付けて鉢売る道の駅	兵庫	小川孝子
喫茶店の窓辺滴る青葡萄	奈良	堀田ますみ	桐の花近頃夫に逆らはず	兵庫	吉村玲子
タクシーの車窓に踊る半夏生	兵庫	舩山美貴	急ぎ来し汗のおさまるまでの刻	兵庫	小田ひろ
川蜻蛉喪服が肌の白語る	大阪	梶田高清	白扇に受ける御祝儀祭長	大阪	生澤瑛子
抱けと泣く汗の子を抱く親の汗	三重	池本準一	ランタンの影のゆらぎやバンガロー	大阪	田邊育子
梅漬けて主婦を熟してゐるつもり	大阪	立入宮子	音たてて日傘を開く漢かな	鳥取	棕 誠一朗
大詰は水水水の夏芝居	大阪	若林友子	蘆茂る水の流れの見えぬほど	鳥取	棕 則子
咲く気品零す風情の沙羅の花	奈良	河村久美子	風に結ふ願の糸の揺れ通し	香川	真鍋孝子
木洩れ日を揺らす大空合歓の花	大阪	谷本房子	夏座敷心くぼりの見え隠れ	兵庫	深尾真理子
蘆茂り水辺の鳥のオアシスに	兵庫	宮本露子	目で食し口で味はふ夏料理	兵庫	高橋純子
青葡萄いつも別れは突然に	兵庫	日下富貴子	懐かしきもの水無月の星見台	兵庫	玉手のり子
バンガロー静まり返る丑の刻	三重	中島庸子	もう一步踏み出す力炎天下	徳島	多田まさ子
虚子館の涼風に解く旅ごころ	兵庫	黒田千賀子	炎天を来し眼に昏きロビーかな	香川	三宅久美子
虚子館の桂の葉蔭句碑涼し	大阪	徳岡美祢子	俳磚をなぞる木洩れ日館涼し	兵庫	奥田好子
缶ビールあけて檀流クッキング	大阪	北上美佐子	蔵人の試作重ねし一夜酒	兵庫	辻 桂湖
虚子館の風促して百合咲けり	石川	辰巳葉流	造り滝ながめ客待つ席であり	兵庫	永沢達明
月光の歌より生るる青葡萄	鳥取	前田 千	虹消えて晴るる明日を思ひけり	大阪	林 曜子
犬役の年尾涼しき仏語劇	兵庫	森岡喜恵子	対岸の峰峰毀つかに雲の峰	兵庫	槌橋眞美
集まれば子等は饒舌青ぶだう	三重	松村咲子	虚と実のはざまに揺るる夜店の灯	兵庫	池田雅かず
日盛りに人の気失せし街の景	石川	辰巳昌彦	地震下越へホ句の学びに雲の峰	石川	赤島磨智子
			回想の夜を振り切つて時鳥	兵庫	岸川佐江

炎天を来て半地下の句会場	兵庫	藤井啓子	家中に増ゆる足音夏休	兵庫	阿曾宏之
ナイターやヒットもミスも喚声に	京都	山崎貴子	取り分くる皿も六兵衛祭鱧	兵庫	キートスばんじょうし
森林浴喧噪の街離れけり	奈良	堀ノ内和夫	身の丈を知らぬねち花天を衝く	神奈川	斉藤苑子
黒髪を結ふて薄暑の吊り足場	滋賀	近江堇花	街灯の映す守宮の影絵かな	兵庫	太平楽太郎
鬼百合や腰が曲がつて咲きにけり	兵庫	神谷宗昌	来ぬ人をまだ諦めぬ花火の昼	兵庫	藤野友愛
海の日地球ボランティアの句会	兵庫	平田 恵	青柿へはや早脚立用意して	兵庫	柄川武子
色気とは葛饅頭の透け具合	兵庫	足立朱麻	空蟬の命あるごと木を掴む	兵庫	山口弘子
砂突きて起こせし銚の先の章魚	愛知	海神瑠珂	嘘本音卷かれ解かれて落し文	兵庫	西尾登志子
嬰兒の長き睫毛や合歓の花	愛媛	星月彩也華	風見鶏の坂に拾ひし落し文	兵庫	川村ひろみ
鉄砲も百合ならば善し咲いて佳し	奈良	豚々舎休庵	化野の風と遊びて落し文	兵庫	大西美知子
虚子の碑のある寺京の桔梗かな	兵庫	福田光博	月下美人髪濡れしまま待ち焦れ	兵庫	道中義臣
灼け砂に踊る裸足のワルツかな	神奈川	小林 心	筆まめの母の晩年落し文	兵庫	山崎渺美
肋骨にひびを抱へて冷奴	滋賀	太田怒忘	空蟬に渾身の力爪の先	兵庫	北井真有美
健康の外は望まず鰻の日	兵庫	二瓶美奈子	蟬時雨体感温度三度上げ	兵庫	恵島祥一朗
落し文にも悪筆のあるらしく	大阪	石橋玲子	列島の身の反りかへる暑さかな	東京	桜鯛みわ
大門に円かな光差す晩夏	兵庫	山田佳乃	夕焼は空が脱力する時間	神奈川	進藤剛至
形代や水に流せぬ罪も着て	兵庫	伊集院秀樹	香をまとふやうにくぐるや薔薇の門	神奈川	金子三奈乃
飛び跳ねて見てみて私初浴衣	兵庫	岩水ひとみ			
朝曇猫眠さうに大あくび	石川	白根寿子			
鰻井の四隅一粒残さざる	兵庫	高市敦之			
アルタイルベガとの距離は何マイル	兵庫	古橋君枝			
寝言にて亡父の戦地や敗戦日	愛知	小野 薫			
餓鬼の世の沼を抜け出す月涼し	京都	杉森大介			
八月や空襲絵巻色褪せず	和歌山	中島紀生			
外苑のシュプレヒコール油蟬	兵庫	風待あんぬ			
輿入れのガラシヤに菊の指輪かな	熊本	貴田雄介			